

オンライン版 全国地域協議会代表者会議

## 第1・2次 全国地域協議会活動調査 集計結果の概要

令和2年11月7日

(一財)健康・生きがい開発財団

木村和生

1

### 1、調査目的

- 人生100年時代という、新しい時代にふさわしい地域協議会及び財団の今後の活動の参考とすべく、全国の地域協議会の事業・活動内容及び財政事情を把握することを目的に実施
- 特に、登録会員の会費収入に頼っている現状から、各種事業からの収益性を高める方策を探るべく、各協議会が実施する事業内容とその実践ノウハウ、携わる人材、収支状況等について、聞き取りを含めておこなった

2

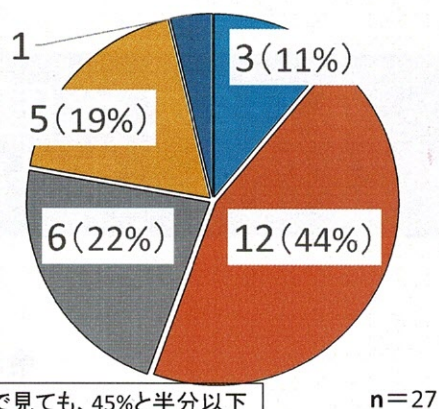


## 4、第1次調査 集計結果の概要

### 1、登録会員数別協議会数

#### (1) 登録会員数

■ 10人以内	3 協議会	} 30人以下 55%
■ 11～30人	12 協議会	
■ 31～50人	6 協議会	} 51人以上 22%
■ 51～100人	5 協議会	
■ 101人以上	1 協議会	



※ 会員数が最も多いのは神奈川県204人、続いて北海道99人、静岡と滋賀69人

#### (2) 実働会員数は、登録会員数の60～70%

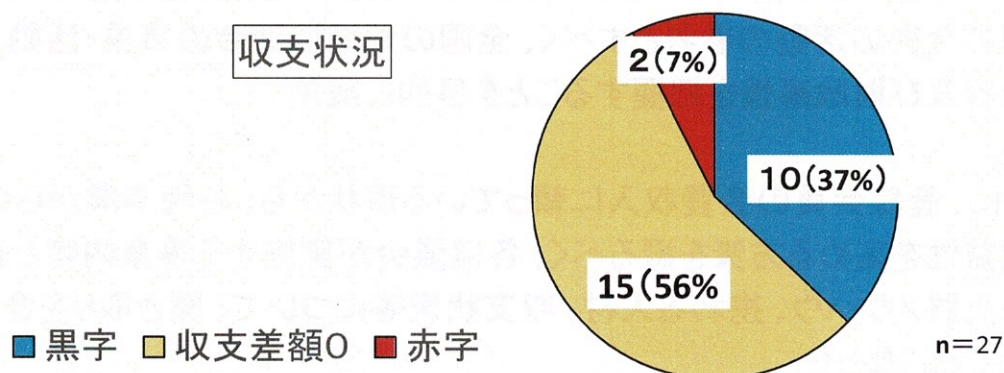
3

### 4、運営実態・収支状況

(1) 27協議会のうち、黒字は10、収支差額0は15、赤字は2

(2) 事務所経費を負担しているのは12で、負担額は最大で年間30万円

#### 収支状況



4



## 5、協議会の財政事情

- 登録会員の減少＝会費収入減となり、厳しい協議会運営を強いられている
- 講座事業、健康づくり事業、イベント事業等あるが、大きな収益事業とはなっていない

## 6、協議会の発展に向けて

- 社会に貢献できる協議会となるには、**会員数の増、運営費の確保が必須**、そして、**何より魅力ある事業の開発**
- では、魅力ある事業のとして挙げられるものとは・・・

- ・ 行政との協働による助成金対応事業の受託
- ・ 民間企業、他団体との連携、協働による収益性の高い事業（CSR的なリスクの少ない社会貢献的事業）

5

## 7、魅力ある活動及び事業の例として

※ 新「財団事業案内」より

活動地域	実施(活動)事業名
1、新潟県	新潟市のフレイル予防事業への参画
2、神奈川県	ノルディック・ポールウォーキングを通じて広がる仲間づくり
3、滋賀県	「栗東100歳大学」の開講とその効果
4、埼玉県	川口市「盛人大学」の企画運営
5、神奈川県	横浜市に「コミュニティサロン」を開設
6、和歌山県	「健康生きがいづくり一座」で楽しいふれあい交流
7、新潟県	「長岡健康生きがい創成ネットワーク」を通じ地域の活性化に貢献
8、神奈川県	やりがいのある「成年後見活動」に参加



## 8、協議会を支える活動の事業化へ向けて

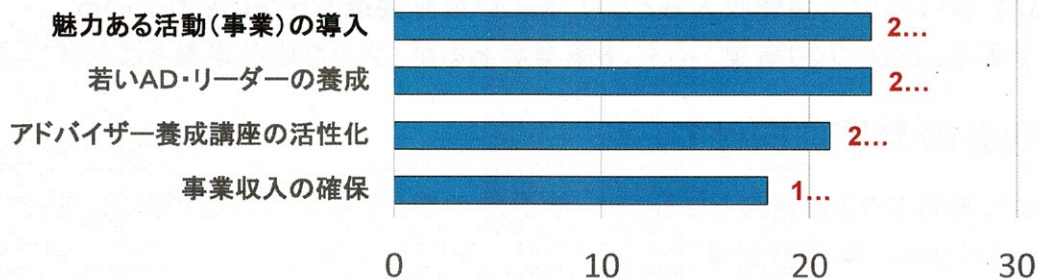
- 実施する事業を通じて新規登録会員が確保でき、リーダーが生れ、参加するADへも交通費と手当ての支払いが可能な規模と内容があり、**小リスクで事業展開が可能なもの**  
 → 神奈川、滋賀の協議会活動が参考になる

6



## 2、協議会活性化へ向けての課題・目標

(複数回答、n=27)

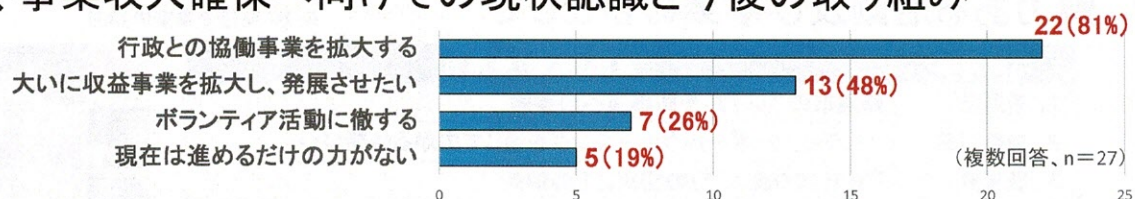


### その他の意見

- ・定例会の開催
- ・会員のスキルアップ
- ・会員からの意見聴取
- ・補助金、助成金の導入
- ・関連団体とのネットワーク構築
- ・成果物の販売
- ・「生きがい講座」を全県下で実施
- 他

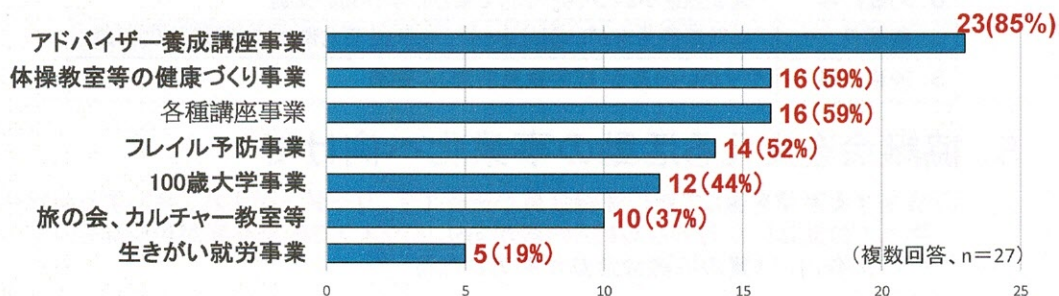
7

## 3、事業収入確保へ向けての現状認識と今後の取り組み



(複数回答、n=27)

## 4、収益事業として取り組みたい事業



(複数回答、n=27)

8